

第7章 長野県におけるフリーターの特徴とその離脱

1. はじめに

本調査の主たる目的の一つに、長野県のフリーターの状況を明らかにし、あわせてなぜフリーターになり、どのようにフリーターから離脱したのかを明らかにすることがある。本節ではこれらの点について触れていくこととする。なお、ここでいうフリーターとは本人の意思に基づくものであり、一般的な定義に基づくものではない。

本節は大きく、①東京との差異、②長野県の特徴、の2つのテーマで展開される。①の東京との差異をみる場合には、東京調査では18歳から29歳までを対象とし、本調査では20歳から34歳までを対象としているが、両調査の回答者の整合性を図るため、特に断りのない限り両調査とも20～29歳の若者を対象として紹介する。また分類の方法や言葉の定義は2001年および2006年の東京調査と一致している。

他方、②の長野県の特徴をみる場合には、20歳～34歳の全回答者を対象としているため、前者で紹介した合計値や比率と合致していないことが多い。あらかじめ留意していただきたい。

2. フリーター経験率とそのタイプ

(1) フリーター経験率

図表7-1は長野県におけるフリーター経験率を2006年の東京調査の結果と対比させたものである。これをみると、20歳代前半では東京の男性が51.9%、女性が50.4%といずれも半数以上がフリーターを経験しているのに対し、長野県では男性が33.6%、女性では37.8%と非常に少ない。これは20歳代後半でも同様であり、東京の41.3%、50.0%に対して長野県では男性が29.8%、女性が37.7%となっている。すなわち女性にフリーター経験者がやや多いものの、東京よりは男女ともフリーター経験者が少ないといえる。

図表7-1 フリーター経験率（長野県と東京の比較）

	長野県		東京都	
	男	女	男	女
～19歳	—	—	72.5	77.4
20～24歳	33.6	37.8	51.9	50.4
25～29歳	29.8	37.7	41.3	50.0
30歳～	22.9	40.5	—	—

これを性別・学歴別にみると（図表7-2参照）、まず男女とも高校以下の35.6%、50.6%から大学以上の18.4%、25.0%へと、学歴が高くなるにつれてフリーター経験者は少なくなる。また性別・卒業中退別にみると、男性では卒業生が24.8%に対して中退者は65.8%、女性では同36.2%、82.1%と、男性では約2.7倍、女性では約2.3倍も中退者のほうが多くフ

リーターを経験している。さらに初職での雇用形態別にみると、初職で正社員であった若者は18.8%しかフリーターを経験していないのに対して、初職が非正社員・派遣社員であった若者は81.1%もフリーターを経験している。

図表7-2 フリーター経験率（長野県）

		(%)		
		ある	ない	合計 (件)
合計		33.2	66.8	1000
性別・ 学歴別	男性高校以下	35.6	64.4	205
	男性短大専門高専	28.0	72.0	150
	男性大学以上	18.4	81.6	163
	女性高校以下	50.6	49.4	178
	女性短大専門高専	34.7	65.3	219
	女性大学以上	25.0	75.0	84
性別・ 卒業 中退別	男性卒業	24.8	75.2	479
	男性中退	65.8	34.2	38
	女性卒業	36.2	63.8	453
	女性中退	82.1	17.9	28
初職	正社員	18.8	81.2	718
	非正社員・派遣社員	81.1	18.9	190
	自営・家族従業	9.1	90.9	11
	無職	50.0	50.0	74

(2) フリーターのタイプ

つぎに長野県フリーターのタイプをみてみよう。ここでは2001年の東京調査、および2006年の東京調査に準じてフリーターを「モラトリアム型」「夢追求型」「やむを得ず型」の3類型に分類している。さてこの3類型を示す図表7-3を見ると、長野県ではやむを得ず型が20歳代前半で37.5%、20歳代後半で42.4%と東京よりも多いことがわかる。また20歳代前半では夢追求型が少なく(8.8%)、反対にモラトリアム型が多い(53.8%)という特徴もみられる。

これを年齢別にみると、モラトリアム型は20歳代前半の53.8%から30歳代の31.7%へと年齢が高くなるにつれて少なくなっている。代わりにやむを得ず型が37.5%から57.5%へと年齢が高いほど多くなっている。つぎに初職の雇用形態別にみると、正社員ではやむを得ず型が52.8%と多い。反対に非正社員・派遣社員では夢追求型とモラトリアム型がそれぞれ16.8%、40.1%とわずかではあるが多くなっている。

さらに性別にみると、男性では夢追求型とモラトリアム型が多く(19.4%、43.3%)、対して女性ではやむを得ず型が55.2%と多い。また性別・学歴別にみると、やむを得ず型が男女ともに大学以上で51.9%、61.1%と多い。最後に性別・卒業中退別にみると、男性では卒業生でモラトリアム型(44.1%)が、中退者でやむを得ず型(40.9%)が多いものの、その差はわずかである。しかし女性では卒業生はやむを得ず型が57.6%と非常に多く、対して中退者ではモラトリアム型が47.6%と多くなっている。

図表 7-3 フリーターの3類型

		(%)				
		夢追求型	モラトリアム型	やむを得ず型	合計 (件)	
東京都男性	20～24歳	26.8	47.4	25.8	190	
	25～29歳	29.0	39.4	31.6	193	
東京都女性	20～24歳	22.7	46.5	30.8	172	
	25～29歳	22.0	42.4	35.6	205	
長野県	20～24歳	8.8	53.8	37.5	80	
	25～29歳	24.2	33.3	42.4	99	
長野県	合計	14.7	38.1	47.2	299	
	年齢	20～24歳	8.8	53.8	37.5	80
		25～29歳	24.2	33.3	42.4	99
		30歳～	10.8	31.7	57.5	120
	初職	正社員	11.2	36.0	52.8	125
		非正社員・派遣社員	16.8	40.1	43.1	137
		自営・家族従業	0.0	0.0	100.0	1
		無職	18.8	37.5	43.8	32
	性別	男性	19.4	43.3	37.3	134
		女性	10.9	33.9	55.2	165
	性別・ 学歴別	男性高校以下	19.7	45.1	35.2	71
		男性短大専門高専	19.4	50.0	30.6	36
		男性大学以上	18.5	29.6	51.9	27
		女性高校以下	7.2	41.0	51.8	83
		女性短大専門高専	17.2	25.0	57.8	64
	女性大学以上	5.6	33.3	61.1	18	
	性別・ 卒業 中退別	男性卒業	18.9	44.1	36.9	111
男性中退		18.2	40.9	40.9	22	
女性卒業		10.4	31.9	57.6	144	
女性中退		14.3	47.6	38.1	21	

3. フリーターになった要因 -なぜフリーターになったのか-

(1) フリーターになった最大の理由

それでは長野県のフリーターは、なぜフリーターになったのだろうか。まずその最大の理由をみてみよう。2006年東京調査との比較を示す図表7-4をみると、長野県では年齢に関係なく、「正社員として採用されなかったから」(20歳代前半 7.4%、20歳代後半 13.6%)、「生活のために一時的に働く必要があったから」(同 10.6%、10.0%)、「家庭の事情」(同 5.3%、9.1%)が多い。反対に「仕事以外にしたいことがあるから」(同 4.3%、8.2%)や「なんとなく」(同 8.5%、9.1%)は少なくなっている。また「自由な働き方をしたかった」は東京では20歳代前半で多いのに対し(東京 11.4%)、長野県では20歳代後半で多くなっている(長野県 10.9%)。

図表 7-4 フリーターになった最大の理由（長野県と東京の比較）

		(%)									
		仕事以外にしたい ことがあるから	就きたい仕事ための 準備期間として	自分に合う仕事を 見つけるため	正社員として採用 されなかったから	生活のために一時的に 働く必要があったから	なんとなく	正社員は嫌だったから	家庭の事情	自由な働き方を したかった	その他
東京	20～24歳	13.7	13.9	23.3	6.3	8.9	11.1	2.3	3.8	11.4	4.8
	25～29歳	14.6	17.7	17.3	8.1	7.2	11.2	1.8	5.6	9.9	6.3
長野県	20～24歳	4.3	13.8	24.5	7.4	10.6	8.5	2.1	5.3	8.5	13.8
	25～29歳	8.2	14.5	19.1	13.6	10.0	9.1	1.8	9.1	10.9	3.6

これを性別にみてみよう（図表 7-5 参照）。男性では「仕事以外にしたいことがあるから」（8.3%）、「自分に合う仕事を見つけるため」（26.9%）、「生活のために一時的に働く必要があったから」（13.8%）、「なんとなく」（10.3%）が多くなっている。これに対し女性では「家庭の事情」（21.9%）が非常に多くなっている。つぎに年齢別にみると、「自分に合う仕事を見つけるため」が20歳代前半の24.5%から30歳代以降の18.8%へと、年齢が高くなるにつれて少なくなっている。これに対して「家庭の事情」が5.3%から23.4%へと、年齢が高くなるにつれて多くなっている。このように女性や年齢が高い若者で「家庭の事情」が多くなっている。

さらに初職の雇用形態別にみると、初職が正社員だった若者がフリーターになった理由では「家庭の事情」（24.4%）の多さが特徴的である。これ以外の理由では「生活のために一時的に働く必要があったから」（14.1%）が多くなっている。対して初職が非正社員・派遣社員だった場合には、「就きたい仕事のための準備期間として」（12.3%）や「正社員として採用されなかったから」（16.2%）が多くなっている。

続いて性別・学歴別にみると、まず男女を問わずに「就きたい仕事のための準備期間として」が高校以下の4.1%、5.6%から大学以上の20.0%、23.8%へと、学歴が高いほど多くなる。また男性では「自分に合う仕事を見つけるため」が同34.2%から16.7%へと、学歴が高いほど少なくなる。対して女性では「正社員として採用されなかった」（11.1%から0.0%）や「なんとなく」（7.8%から0.0%）が学歴が高いほど少なくなっている。なお「家庭の事情」は学歴に関係なく多くなっている。

最後に性別・卒業中退別にみると、「自分に合う仕事を見つけるため」が男女ともに中退者で多くなっているが（32.0%、21.7%）、対して「生活のために一時的に働く必要があったから」は卒業生で多くなっている（16.0%、9.8%）。またこれら以外では、第一に男性卒業生と女性中退者で「なんとなく」が多い（11.8%・13.0%）、女性卒業生で「正社員として採用

されなかったから」(10.4%)と「家庭の事情」(23.8%)が多い、といった特徴もみられる。

図表7-5 フリーターになった最大の理由(長野県)

		仕事以外にしたい ことがあるから	就きたい仕事ための 準備期間として	自分 見つけるため	採用 されなかったから	生活の 必要があつたために 一時的に	なんとなく	正社員は嫌だつたから	家庭の 事情	自由な 働き方を したかつた	その他	合計 (件)
合計		6.0	10.8	20.5	10.8	11.1	7.8	1.8	13.6	8.1	9.0	332
性	男	8.3	9.7	26.9	13.1	13.8	10.3	2.8	2.8	6.9	5.5	145
	女	4.3	11.8	15.5	9.1	9.1	5.9	1.1	21.9	9.1	11.8	187
年齢	20～24歳	4.3	13.8	24.5	7.4	10.6	8.5	2.1	5.3	8.5	13.8	94
	25～29歳	8.2	14.5	19.1	13.6	10.0	9.1	1.8	9.1	10.9	3.6	110
	30歳～	5.5	5.5	18.8	10.9	12.5	6.3	1.6	23.4	5.5	10.2	128
初職	正社員	4.4	8.1	20.7	5.2	14.1	5.9	1.5	24.4	6.7	8.9	135
	非正社員・派遣社員	5.8	12.3	22.1	16.2	7.8	9.7	1.3	5.8	10.4	7.8	154
	自営・家族従業	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	無職	10.8	16.2	13.5	8.1	16.2	8.1	5.4	5.4	5.4	10.8	37
性別・ 学歴別	男性高校以下	6.8	4.1	34.2	16.4	11.0	11.0	2.7	2.7	6.8	4.1	73
	男性短大専門高専	9.5	11.9	21.4	9.5	16.7	9.5	4.8	0.0	7.1	9.5	42
	男性大学以上	10.0	20.0	16.7	10.0	16.7	10.0	0.0	6.7	6.7	3.3	30
	女性高校以下	4.4	5.6	17.8	11.1	6.7	7.8	1.1	21.1	7.8	16.7	90
	女性短大専門高専	3.9	15.8	13.2	9.2	11.8	5.3	1.3	23.7	6.6	7.9	76
女性大学以上	4.8	23.8	14.3	0.0	9.5	0.0	0.0	19.0	23.8	4.8	21	
性別・ 卒業 中退別	男性卒業	8.4	9.2	26.1	13.4	16.0	11.8	3.4	1.7	6.7	3.4	119
	男性中退	8.0	8.0	32.0	12.0	4.0	4.0	0.0	8.0	8.0	16.0	25
	女性卒業	4.3	12.2	14.6	10.4	9.8	4.9	1.2	23.8	9.1	9.8	164
	女性中退	4.3	8.7	21.7	0.0	4.3	13.0	0.0	8.7	8.7	26.1	23
性別・ 結婚の 有無別	男性・すでに結婚	6.9	13.8	31.0	10.3	6.9	10.3	0.0	3.4	10.3	6.9	29
	男性・まだ結婚していない	8.6	8.6	25.9	13.8	15.5	10.3	3.4	2.6	6.0	5.2	116
	女性・すでに結婚	1.3	3.8	10.3	6.4	14.1	2.6	0.0	44.9	7.7	9.0	78
	女性・まだ結婚していない	6.5	17.6	19.4	11.1	5.6	8.3	1.9	5.6	9.3	13.9	108

このように長野県では女性で家庭の事情が多く、とりわけ年齢の高い若者、卒業者、初職が正社員であった若者で顕著である。これは恐らく、長野県においては結婚や育児を理由に非正社員として働く場合もフリーターとして認識する若者がいるためではなかろうか。その証拠に性別・結婚の有無別にみると、男性では既婚・未婚と「家庭の事情」にまったく差異がないものの、女性既婚者では44.9%と、女性未婚者の5.6%を大きく上回っている。また図表7-6をみても、女性既婚者のフリーター経験率は著しく高い。

図表 7-6 性別・既婚未婚別にみたフリーター経験率（長野県）

		(%)		
		ある	ない	合計 (件)
男性	合計	27.9	72.1	519
	すでに結婚している	17.1	82.9	170
	まだ結婚していない	33.3	66.7	348
女性	合計	38.9	61.1	481
	すでに結婚している	49.7	50.3	157
	まだ結婚していない	33.4	66.6	323

(2) 初職における正社員就職の失敗

フリーターになってしまった理由は他にもある。フリーター経験の有無別に初職での雇用形態を示す図表 7-7 をみてみよう。まずフリーター経験の有無別・性別にみると、フリーター経験のない若者では、男女とも初職で正社員であった場合が多い（88.8%、85.4%）。つまり職業人生の始まりを正社員でスタートさせるとフリーターを経験する可能性が著しく低いことがわかる。これに対してフリーター経験のある若者のうち、正社員からスタートしたのは男性で 29.7%、女性で 49.2%であった。すなわち男性の場合では、フリーター経験者の約 7 割が職業人生を「正社員以外の働き方」でスタートさせたことになり、女性の場合でも約 5 割に同じことがいえる。

続いてフリーター経験の有無別・学歴別にみると、経験のない若者のうち正社員からスタートしたのは高校以下で 87.7%、専門・短大・高専で 89.6%、大学以上 84.2%と、いずれの学歴をみてもフリーターの経験がない若者は 8～9 割が正社員から職業人生をスタートさせている。これに対しフリーター経験のある若者のうち正社員からスタートしたのは、高校以下で 39.9%、専門・短大・高専で 42.4%、大学以上で 39.2%と、おおむね 4 割程度に過ぎない。

最後にフリーターの経験別・卒業中退別にみると、フリーター経験のない若者のうち、卒業者は 89.1%が、また中退者は 22.2%が正社員からスタートしている。しかし経験のある若者をみると卒業生では 46.6%が、また中退者にいたってはわずかに 6.3%が正社員からスタートしたに過ぎない。このようにフリーター経験の有無には、初職で正社員であったか否かが大きく影響していることがわかる。

図表 7-7 フリーター経験の有無別にみた初職（長野県）

			(%)						
			正社員	非正社員・派遣社員	自営・家族従業	無職	その他	不明	合計(件)
合計			71.8	19.0	1.1	7.4	0.5	0.2	1000
経験別・性別	男	経験あり	29.7	54.5	0.0	14.5	1.4	0.0	145
		経験なし	88.8	4.0	1.1	5.9	0.0	0.3	374
	女	経験あり	49.2	40.1	0.5	8.6	1.6	0.0	187
		経験なし	85.4	7.1	2.0	5.1	0.0	0.3	294
経験別・学歴別	高校以下	経験あり	39.9	48.5	0.0	9.2	2.5	0.0	163
		経験なし	87.7	4.1	3.2	5.0	0.0	0.0	220
	短大・専門・高専	経験あり	42.4	44.9	0.8	11.0	0.8	0.0	118
		経験なし	89.6	4.8	1.2	4.0	0.0	0.4	251
	大学以上	経験あり	39.2	43.1	0.0	17.6	0.0	0.0	51
		経験なし	84.2	7.1	0.0	8.2	0.0	0.5	196
経験別・卒業・中退別	卒業	経験あり	46.6	42.8	0.4	9.2	1.1	0.0	283
		経験なし	89.1	5.1	1.4	4.2	0.0	0.3	649
	中退	経験あり	6.3	66.7	0.0	22.9	4.2	0.0	48
		経験なし	22.2	16.7	5.6	55.6	0.0	0.0	18

(3) 初職で正社員就職できなかった要因

それではフリーター経験のある若者は、なぜ初職において正社員として就職できなかったのだろうか。そこでフリーターの経験があり、かつ初職で正社員・公務員以外の働き方であった若者についてみてみよう。図表 7-8 は初職で正社員にならなかった際にどのような活動を行ったかを示しているが、これをみると長野県では「民間企業への応募」は 20 歳代前半で 50.5%、20 歳代後半で 58.8%と、東京よりも多くの若者がいわゆる就職活動を行っていたことがわかる。つまり正社員になる意思はあったものの、正社員になれなかった若者が多いと考えられる。ちなみに選択肢のいずれに対しても記入がなかった回答者、すなわち卒業・中退前に何ら活動を行っていなかった可能性がある若者の比率（以下、無活動者比率と記す）は、20 歳代前半で 30.1%、20 歳代後半で 27.8%であった。

これを性別にみると、男性では「進学・留学を希望しての受験」（10.8%）や「公務員試験・教員試験などの資格試験準備」（11.8%）がやや多い。なお、無活動者比率は男性の 27.5%に対して、女性では 33.7%とやや高くなっている。また学歴別にみると、高校以下では「進学・留学」が 13.3%と多く、専門・短大・高専では「民間企業への応募」（64.7%）が、大学以上では「資格試験準備」（35.5%）がそれぞれ多くなっている。なお無活動比率をみると、高校以下で 35.7%とやや高くなっている。最後に卒業中退別にみると、卒業者は「民間企業への応募」が 61.6%と著しく多く、また「進学・留学」「資格試験準備」も 9.9%、11.3%と中退者を上回っている。他方で無活動者比率は中退者で 57.8%と半数以上を占めている。つまり中退者の半分以上が何ら就職・進路準備をせずに、初職から正社員以外の働き方に従事したり無職になるなどにより、やがてフリーターを経験していることが推測される。

図表 7-8 初職で正社員・公務員になれなかった際の活動

(%)

		民間企業 への応募	進学・留学 を希望して の受験	公務員試験・ 教員試験 などの資格 試験の準備	無活動者 比率 (※)	合計 (件)	
東京	20～24歳	48.2	13.6	6.1	—	411	
	25～29歳	46.2	10.2	12.7	—	403	
長野県	20～24歳	50.5	15.1	7.5	30.1	93	
	25～29歳	58.8	5.2	15.5	27.8	97	
長野県	合計	54.3	9.6	13.6	27.9	280	
	フリー ター 経験あり	男	53.9	10.8	11.8	27.5	102
		女	54.7	6.3	8.4	33.7	95
	フリー ター 経験あり	高校以下	51.0	13.3	2.0	35.7	98
		専門・短大・高専	64.7	4.4	10.3	23.5	68
		大学以上	41.9	3.2	35.5	29.0	31
	フリー ター 経験あり	卒業	61.6	9.9	11.3	21.9	151
		中退	31.1	4.4	6.7	57.8	45

※:3つの選択肢のいずれにも記入がなかった回答者の比率

4. フリーターの通算経験期間

ところでフリーター経験者はどのくらいの期間、フリーターのままでいるのだろうか。これを示したものが図表 7-9 だが、ここでは期間指数に注目して分析を進める。これを見ると、東京では 20 歳代前半が 2.3、後半が 2.6 であるのに対し、長野県では前半・後半ともに 2.8 となっており、フリーター期間が長期化していることがわかる。特に 20 歳代前半においては、東京と長野県の差が非常に大きい。さらに年齢別にみると、30 歳代では 3.1 とさらにフリーター期間が長期化していることがわかる。

つぎに初職の雇用形態別にみると、正社員の 2.8 に対して非正社員・派遣社員では 3.0 と、正社員からスタートしなかったフリーターはその期間が長期化している。また性別にみると、男性の 2.8 に対し女性は 3.0 と、女性フリーターのほうが長期化している。さらに性別・学歴別にみると、男性では高校以下の 2.9 から大学以上の 2.5 へと、学歴が高いほどフリーター期間が短い。最後に性別・卒業中退別にみると、男性では卒業者・中退者のいずれも 2.8 であり、卒業・中退とフリーター期間に関係はみられない。しかし女性では卒業者の 3.0 に対して中退者では 3.2 と長期化している。

このように長野県ではフリーターになるとその期間が長期化してしまうが、特に 30 歳以降の若者、初職が正社員ではなかった若者、女性（中でも中退した女性）、学歴の高くない男性でその長期化が進んでいる。

図表 7-9 フリーターの通算経験期間

								(%)	
		1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上	不明	合計(件)	期間指数(ポイント)	
東京都合計	20～24歳	31.1	26.8	23.3	18.5	0.3	395	2.3	
	25～29歳	24.5	23.3	15.9	36.1	0.2	446	2.6	
長野県	20～24歳	8.5	27.7	11.7	26.6	25.5	94	2.8	
	25～29歳	10.9	26.4	18.2	30.0	14.5	110	2.8	
長野県	合計	8.7	25.3	13.9	34.9	17.2	332	2.9	
	年齢	20～24歳	8.5	27.7	11.7	26.6	25.5	94	2.8
		25～29歳	10.9	26.4	18.2	30.0	14.5	110	2.8
		30歳～	7.0	22.7	11.7	45.3	13.3	128	3.1
	初職	正社員	11.9	23.0	12.6	31.1	21.5	135	2.8
		非正社員・派遣社員	7.8	24.7	13.6	39.0	14.9	154	3.0
		自営・家族従業	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	1	4.0
		無職	0.0	32.4	21.6	32.4	13.5	37	3.0
	性別	男性	11.0	26.9	13.8	30.3	17.9	145	2.8
		女性	7.0	24.1	13.9	38.5	16.6	187	3.0
	性別・学歴別	男性高校以下	12.3	24.7	13.7	39.7	9.6	73	2.9
		男性短大専門高専	9.5	26.2	9.5	26.2	28.6	42	2.7
		男性大学以上	10.0	33.3	20.0	13.3	23.3	30	2.5
		女性高校以下	7.8	18.9	14.4	46.7	12.2	90	3.1
		女性短大専門高専	5.3	34.2	10.5	28.9	21.1	76	2.8
		女性大学以上	9.5	9.5	23.8	38.1	19.0	21	3.1
	性別・卒業中退別	男性卒業	10.9	25.2	15.1	29.4	19.3	119	2.8
男性中退		8.0	36.0	8.0	36.0	12.0	25	2.8	
女性卒業		7.9	24.4	12.2	37.8	17.7	164	3.0	
女性中退		0.0	21.7	26.1	43.5	8.7	23	3.2	

※ 期間指数は「3年以上」×4+「2年以上3年未満」×3+「1年以上2年未満」×2+「1年未満」×1を(100-不明の回答比率)で除した値。値が大きいほど期間が長期化していることを示す。

5. フリーター経験を通じて感じたこと

長野県のフリーターは、その経験を通じてどのような感想や印象を持ったのだろうか。これを示す図表 7-10 をみると、長野県では「役立つ能力が身についた」(20歳代前半で14.9%、20歳代後半で13.6%；東京では20歳代前半17.7%、20歳代後半で22.4%)、「人間関係に関する能力が身についた」(同42.6%、29.1%；東京では同45.8%、40.1%)、「いろいろな経験をすることができた」(同51.1%、52.7%；東京では同58.2%、59.2%)、「自由な時間を持てた」(同43.6%、40.9%；東京では同48.1%、51.3%)が少ない。これに対して「将来に不安を感じた」(同36.2%、40.0%；東京では同36.7%、33.2%)、「生活が不安定だった」(同29.8%、39.1%；東京では同25.3%、27.4%)、「正社員に比べて収入が少なかった」(同38.3%、54.5%；東京では同32.2%、34.1%)などが多くなっている。すなわち東京のフリーターが能力や人脈を得たり多くの経験を積むなど、フリーター期間をキャリアアップに対して肯定的に捉えているのが、長野県のフリーターは「将来への不安」「生活の不安定」「収入の少なさ」など、否定的に捉えているようである。また以上の傾向は20歳代前半よりも20歳代後半で顕著にあらわれている。

これを初職の雇用形態別にみると、正社員では「いろいろな経験をすることができた」(60.7%)、「自由な時間を持てた」(49.6%)、「正社員に比べて収入が少なかった」(56.3%)が多く、収入の問題はあるものの総じてフリーター経験を肯定的に捉えているようである。他方で非正社員・派遣社員から職業人生をスタートした若者では「将来に不安を感じた」(41.6%)が多く、否定的に捉えているようである。

続いて性別・学歴別にみると、男女のどちらにおいても「役立つ能力が身についた」が高校以下の5.5%・10.0%から大学以上の20.0%・19.0%へと、学歴が高いほど多くなっている。同様の傾向は「やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た」(同9.6%・5.6%から16.7%・14.3%へ)でも読み取ることができ、また女性においては「いろいろな経験をすることができた」も学歴が高いほど多くなっている(同51.1%から57.1%へ)。つまり学歴が高い若者ほどフリーター経験を肯定的に捉えているようである。他方で「生活が不安定だった」は男女とも学歴が高いほど少なくなっていることから(同45.2%・24.4%から33.3%・14.3%へ)、学歴が高くない若者ほど否定的である。

最後に性別・卒業中退別にみてみよう。男性では卒業者で「役立つ能力が身についた」(10.9%)、「やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た」(13.4%)、「いろいろな経験をすることができた」(54.6%)が多いのに対し、中退者では「将来に不安を感じた」(52.0%)、「社会的に認められていないと思った」(32.0%)、「正社員に比べて収入が少なかった」(56.0%)が多くなっている。このように男性では卒業者はフリーター経験を肯定的に捉えているのに対し、中退者は否定的に捉えていることがわかる。他方女性についてみると、卒業者では「自由な時間を持てた」が44.5%と多いのに対し、中退者では「役立つ能力が身についた」(26.1%)、「やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た」(26.1%)、「人間関係に関する能力が身についた」(52.2%)、「やりたい仕事ははっきりした」(65.2%)、「いろいろな経験をすることができた」(65.2%)が多くなっている。つまり女性では卒業者・中退者のいずれもフリーター経験を肯定的に捉えており、特に中退者は肯定的である。さらに男性中退者と女性中退者の間には、フリーター経験に対して大きな評価の違いが存在していることもわかった。

図表 7-10 フリーター経験を通じて感じたこと

		(%)													
		役立つ能力が身に付いた	日数を減らされたり、来なくていいといわれた	アルバイト先がなかなか見つからなかった	やりたい仕事に就くための人脈やチャンスを得た	人間関係に関する能力が身についた	やりたい仕事はつきりした	将来に不安を感じた	いろいろな経験をすることができた	社会的に認められていないと思った	生活が不安定だった	自由な時間が持てた	収入が少なかった	正社員に比べて収入が少なかった	合計(件)
東京	20~24歳	17.7	7.8	13.9	13.2	45.8	16.2	36.7	58.2	15.2	25.3	48.1	32.2	395	
	25~29歳	22.4	7.2	9.0	14.3	40.1	18.6	33.2	59.2	18.4	27.4	51.3	34.1	446	
長野県	20~24歳	14.9	3.2	3.2	12.8	42.6	13.8	36.2	51.1	16.0	29.8	43.6	38.3	94	
	25~29歳	13.6	8.2	4.5	14.5	29.1	19.1	40.0	52.7	13.6	39.1	40.9	54.5	110	
合計		12.0	6.0	3.9	10.2	35.2	13.9	35.8	53.6	15.4	30.1	41.6	49.1	332	
長野県	初職	正社員	8.9	3.0	3.7	9.6	32.6	13.3	25.9	60.7	12.6	27.4	49.6	56.3	135
		非正社員・派遣社員	16.2	9.1	3.9	12.3	39.6	16.2	41.6	51.3	14.9	33.8	31.8	39.6	154
		自営・家族従業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	1
		無職	8.1	5.4	5.4	5.4	32.4	2.7	45.9	40.5	27.0	24.3	51.4	59.5	37
		合計	12.0	6.0	3.9	10.2	35.2	13.9	35.8	53.6	15.4	30.1	41.6	49.1	332
	性別・学歴別	男性高校以下	5.5	8.2	5.5	9.6	34.2	13.7	53.4	49.3	20.5	45.2	42.5	46.6	73
		男性短大専門高専	9.5	9.5	4.8	14.3	35.7	9.5	54.8	59.5	21.4	35.7	33.3	42.9	42
		男性大学以上	20.0	3.3	6.7	16.7	36.7	16.7	30.0	53.3	26.7	33.3	43.3	53.3	30
		女性高校以下	10.0	5.6	2.2	5.6	33.3	7.8	30.0	51.1	13.3	24.4	35.6	50.0	90
		女性短大専門高専	17.1	5.3	3.9	10.5	39.5	19.7	21.1	56.6	5.3	22.4	51.3	50.0	76
	女性大学以上	19.0	0.0	0.0	14.3	28.6	23.8	23.8	57.1	14.3	14.3	42.9	57.1	21	
	性別・卒業中退別	男性卒業	10.9	7.6	5.0	13.4	35.3	12.6	48.7	54.6	20.2	40.3	40.3	44.5	119
男性中退		4.0	8.0	8.0	4.0	32.0	12.0	52.0	44.0	32.0	36.0	36.0	56.0	25	
女性卒業		12.2	4.9	2.4	6.1	32.9	13.4	25.0	52.4	10.4	23.2	44.5	51.2	164	
女性中退		26.1	4.3	4.3	26.1	52.2	21.7	30.4	65.2	8.7	17.4	30.4	47.8	23	

6. フリーターからの離脱行動とその結果

(1) フリーターからの離脱行動

ところで長野県のフリーターはフリーターをそのまま継続しているのだろうか。そこでフリーターからの離脱行動についてみてみよう。図表 7-11 をみると、離脱行動の経験が「ある」とした男性は東京の 20 歳代前半が 45.9%、20 歳代後半が 67.3% に対し、長野県では同 67.4%・84.0% となっている。長野県の男性フリーターは東京よりも正社員になろうとする行動をとった若者が多いことがわかる。女性では 20 歳代前半では東京の 34.0% に対して長野県では 39.6% とやや多いに過ぎないが、20 歳代後半では 45.3% に対して 66.7% と男性の場合と同様に離脱行動をとった若者が多い。このように長野県は全般にフリーターからの離脱行動をとった経験のある若者が多く、とりわけ男性や 20 歳代後半の若者では東京との差が顕著となっている。

これを 30 歳代も含めて詳しくみてみよう。まず性別にみると、女性の 51.3% に対して男性では 81.4% と、男性フリーターで離脱行動が多くみられる。また初職の雇用形態別にみると、正社員から職業人生をスタートさせた若者では 57.0% と低いのが、非正社員・派遣社員からスタートした若者では 70.8% と離脱行動が多くみられる。続いて性別・学歴別にみると、男性では高校以下の 83.6% から大学以上の 76.7% とわずかながら学歴が高いほど離脱行動が

少なくなっている。これに対し女性では同 48.9%から 61.9%へと、学歴が高いほど離脱行動が多くなるという正反対の傾向が読み取れる。最後に性別・卒業中退別にみると、男女とも卒業生(80.7%・50.6%)に比べて中退者で離脱行動が多くみられるものの(88.0%・56.5%)、その差は大きなものではない。

図表 7-11 フリーターから正社員へ離脱しようとした経験 (%)

			経験ある	経験ない	合計(件)	
東京	男性	20～24歳	45.9	—	—	
		25～29歳	67.3	—	—	
	女性	20～24歳	34.0	—	—	
		25～29歳	45.3	—	—	
長野県	男性	20～24歳	67.4	32.6	46	
		25～29歳	84.0	16.0	50	
	女性	20～24歳	39.6	60.4	48	
		25～29歳	66.7	33.3	60	
	合計			64.5	35.5	332
	性	男性	81.4	18.6	145	
		女性	51.3	48.7	187	
	初職	正社員	57.0	43.0	135	
		非正社員・派遣社員	70.8	29.2	154	
	性別・学歴別	男性高校以下		83.6	16.4	73
		男性短大専門高専		81.0	19.0	42
		男性大学以上		76.7	23.3	30
		女性高校以下		48.9	51.1	90
		女性短大専門高専		51.3	48.7	76
性別・卒業中退別	女性大学以上		61.9	38.1	21	
	男性卒業		80.7	19.3	119	
	男性中退		88.0	12.0	25	
	女性卒業		50.6	49.4	164	
女性中退		56.5	43.5	23		

(2) フリーターからの離脱行動の成否

それではフリーターからの離脱行動をとった若者は、実際に正社員になれたのだろうか。図表 7-12 をみると、正社員になれた若者は東京の男性では 20 歳代前半が 50.5%、20 歳代後半が 68.8%に対し、長野県では同 58.1%・71.4%と、わずかではあるものの長野県のほうが正社員化した若者は多い。女性では東京が同 45.3%・63.8%に対し、長野県では同 52.6%・62.5%と、20 歳代後半では差はないものの、20 歳代前半でやはり正社員化した若者が多い。このように長野県でフリーターからの離脱行動をとった若者は、東京よりも総じて正社員化していることがわかる。

これを 30 歳代も含めて詳しくみてみよう。まず年齢別では、正社員化した若者は 20 歳代前半の 56.0%から 30 歳代の 72.0%へと、年齢が高いほど多くなっている。また性別では女性の 61.5%に対して男性では 70.3%と、男性のほうが多くなっている。続いて性別学歴別にみると、男性では高校以下の 67.2%から大学以上の 73.9%へと、学歴が高いほど正社員して

いるものの、女性では短大・専門・高専卒が82.1%と非常に多くなっており、学歴との相関はみられない。最後に性別・卒業中退別にみると、男女ともに卒業者の67.7%・59.0%に対して中退者では81.8%・76.9%と、中退者の正社員化が多くなっている。

図表7-12 フリーターから正社員への離脱の成否

			(%)				
			正社員に なった	正社員には なっていない	不明	合計 (件)	
東京	男性	20～24歳	50.5	47.4	2.1	95	
		25～29歳	68.8	31.3	0.0	144	
	女性	20～24歳	45.3	53.1	1.6	64	
		25～29歳	63.8	36.2	0.0	105	
長野県	男性	20～24歳	58.1	41.9	0.0	31	
		25～29歳	71.4	28.6	0.0	42	
	女性	20～24歳	52.6	47.4	0.0	19	
		25～29歳	62.5	37.5	0.0	40	
	合計			66.4	33.6	0.0	214
	年齢	20～24歳	56.0	44.0	0.0	50	
		25～29歳	67.1	32.9	0.0	82	
		30歳～	72.0	28.0	0.0	82	
	性	男性	70.3	29.7	0.0	118	
		女性	61.5	38.5	0.0	96	
	性別・ 学歴別	男性高校以下	67.2	32.8	0.0	61	
		男性短大専門高専	73.5	26.5	0.0	34	
		男性大学以上	73.9	26.1	0.0	23	
		女性高校以下	47.7	52.3	0.0	44	
		女性短大専門高専	82.1	17.9	0.0	39	
	女性大学以上	46.2	53.8	0.0	13		
性別・ 卒業 中退別	男性卒業	67.7	32.3	0.0	96		
	男性中退	81.8	18.2	0.0	22		
	女性卒業	59.0	41.0	0.0	83		
	女性中退	76.9	23.1	0.0	13		

(3) フリーターから離脱に成功した際の入職経路

最後にフリーターであった若者が、どのような入職経路により正社員になることができたのかをみてみよう。図表7-13をみると、年齢に関係なく長野県では「公的機関の紹介」(20歳代前半32.1%・20歳代後半38.2%)、「親・保護者・親戚・知人の紹介」(同28.6%・18.2%)が東京よりも多い。これに対して「インターネット・貼紙・新聞・雑誌」(同14.3%・12.7%)、「派遣会社の紹介」(同0.0%・3.6%)、「パートや契約社員からの登用」(7.1%・10.9%)は東京に比べると利用されていない。

これを30歳代も含めて詳しくみてみよう。まず性別にみると、男性では「パートや契約社員からの登用」が13.3%と多く、対して女性では「公的機関の紹介」がわずかだが多い(40.7%)。また初職の雇用形態別にみると、正社員から職業人生をスタートさせた若者は「公的機関の紹介」(46.0%)や「親・保護者・親戚・知人の紹介」(30.0%)が多いが、対して非正社員・派遣社員からスタートさせた若者では「インターネット・貼紙・新聞・雑誌」(19.2

%) や「パートや契約社員からの登用」(13.7%)が多い。

図表 7-13 フリーターから正社員へ離脱した経路

								(%)	
		公的機関 の紹介	親・保護者・ 親戚・知人 の紹介	インターネット・ 貼紙・新聞 ・雑誌	派遣会社 の紹介	パートや 契約社員 からの登用	その他	合計 (件)	
東京	20～24歳	14.9	1.4	29.7	31.1	21.6	1.4	74	
	25～29歳	18.6	4.3	24.8	31.7	20.5	0.0	161	
長野県	20～24歳	32.1	28.6	14.3	0.0	7.1	17.9	28	
	25～29歳	38.2	18.2	12.7	3.6	10.9	16.4	55	
	合計		38.0	26.1	14.1	1.4	9.9	10.6	142
	性	男性	36.1	26.5	13.3	2.4	13.3	8.4	83
		女性	40.7	25.4	15.3	0.0	5.1	13.6	59
	初職	正社員	46.0	30.0	10.0	0.0	4.0	10.0	50
非正社員・派遣社員		32.9	21.9	19.2	1.4	13.7	11.0	73	

7. おわりに

最後に本章をまとめてみよう。まず長野県にはフリーターを経験した若者が少ない。とりわけ男性では東京との差異は顕著である。なお、長野県の若者にはフリーターに対する認識のズレが存在しているようであり、女性が結婚や育児のために非正社員化しても、これをフリーターとしているようである。これが正しいとすれば、長野県のフリーター経験率は実際にはさらに低く、男女ともフリーター経験率は低いと考えて問題ないだろう。ちなみに長野県ではフリーターになると、その期間が東京に比べて長期化する傾向がある。20歳代前半では東京よりも長期化しており、また長野県内でみても30歳代の若者、女性全般(特に中退者)、学歴の低い男性で長期化の傾向がみられる。

ところでフリーターとなった理由では「正社員になれなかった」「生活のために一時的に働く必要があった」「家庭の事情」といったやむを得ないものが、東京に比べて目立っている。またこの「家庭の事情」の多くは既婚女性や卒業者が回答しているが、これは上述の理由によると考えれば説明がつく。以上の結果から、長野県では「やむを得ず型」のフリーターが多く、年齢の高い若者、正社員から職業キャリアをスタートさせた若者、そして女性卒業者などでこの傾向は強まる。

しかしフリーターになった理由は他にもある。それは初職を正社員でスタートできなかった失敗である。フリーター経験のない若者は9割弱が正社員からスタートしているが、フリーター経験のある若者は男性の約7割、女性の約5割が正社員以外でのスタートとなっている。すなわち長野県では初職における雇用形態が、その後のフリーター経験の有無に一定の影響を与えており、いわば本流から外れた場合に本流へ再度戻ることがある程度難しいこと

が予想される。ちなみに初職で正社員としてスタートできなかった理由だが、大半の若者はおおむね就職活動は行っていたようである。ただし女性、学歴の低い若者、中退者では就職活動、進学留学準備、資格取得準備等を一切行っていない若者も多数存在した。

それではフリーター経験者はフリーターをどのように捉えているのだろうか。まず東京と比べると、20歳代後半の若者を中心に否定的に捉えているようである。また初職が非正社員・派遣社員だった若者、学歴が低い若者、男性中退者もフリーター経験を否定的に捉えている。

このようなフリーターたちだが、東京よりも長野県では離脱行動をとっているフリーターが多い。これは20歳代後半の若者では顕著である。また男性、初職を非正社員・派遣社員からスタートさせた若者、中退者、学歴の低い男性で離脱行動をとった者が多い。その成否だが、東京よりも長野県のほうがわずかに正社員化が進んでいるようであり、長野県では男性（高学歴男性を含む）、中退者、年齢が高い若者で特徴がみられる。しかもその際には公共職業安定所などの公共機関が有用であり、特に女性や初職を正社員でスタートした若者に対して機能しているようである。また親・保護者・親戚・知人の紹介も多く利用されている。以上の離脱行動とその成否に関して、東京と比較を図示したものが図表7-14である。

図表7-14 東京と長野県のフリーターからの離脱行動の比較

